

令和6年(2024年) 年頭所感

一般社団法人全国高圧ガス容器検査協会
会長 白砂 清一

令和6年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます
平素は当協会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

全検協の会長就任から10年になりますが、この間無事故で安定操業を続けてくれた会員各社に感謝する次第です。高圧ガス保安法をしっかりと守り、やるべきことを適切にこなしてくれたお陰と思います。

昨年度の容器検査対象本数は459万本と一昨年と比べ4.8%減となりました。特に夏場は少なくなり週3日程度で対応できる量でした。本年度は490万本に復調し6.8%増となる見込みです。

一方でバルク貯槽くず化に関しては、告示検査の緩和策により多少告示検査を行う基数が増えることが予想されますが、バルク貯槽のくず化基数が2024年にピークを迎えますのでその対応が急がれます。空き時間に設備改善などに取り組み、業務体制の強化に励んで頂きたいと思います。

また、長引く原料やエネルギー価格高騰の影響を受け、その価格転嫁に悩む企業も多いと思います。値上げを受け入れてもらうには、上げ幅の理由をしっかりと自社で精査し、値上げ直前の公表は避けて半年ほど前に公開することが有効です。同業他社の方の上げ幅が低いとしても、それはその企業の努力の結果ととらえ自社のコスト低減に努めて欲しい。時代の潮流に合わせて舵を切り、事業の多角化などで経営基盤を強靱にすることが容器検査事業を安定的に継続することに繋がっていくと思います。

全検協は創立50周年を迎えました。協会の歴史の中で、私たちは技術の進化と規制の変化に合わせて適応し、高圧ガス容器の安全性に関する厳格な基準を策定し遵守してまいりました。この実績が私たちの業界全体の信頼を築き上げ、高圧ガス容器の再検査におけるスタンダードとしての地位を確立しました。協会は今日も、業界の進化に対応し、新たな課題に対処し続けています。

新年を迎えるにあたり、進歩する再検査技術のスキルアップと保安を担う協会として会員・賛助会員・関係する企業と団体の皆様との連携を強化し業界の発展と地位向上に努めてまいります。これからも引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。本年も皆様の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

